



今月のテーマ 「離床センサー」以外の転倒予防ケアについて

「離床センサー」で対象者の行動を把握し、転倒・転落を未然に防ぐことが出来ますが、現場では、「離床センサー」以外でどのようなケアができるかを下記に挙げてみました。ご参考ください。

① 徘徊による転倒

- ・転倒の危険性があるときの付き添いや声掛けを行う
- ・夜間観察や巡回数を増やす



離床センサー
タイプはこちら

徘徊コール・離床コール
対象者の徘徊を検知します

② トイレでの転倒

- ・排泄のパターンを把握 → 適時のトイレ誘導する
- ・おむつやポータブルトイレに頼らない排泄を目指す



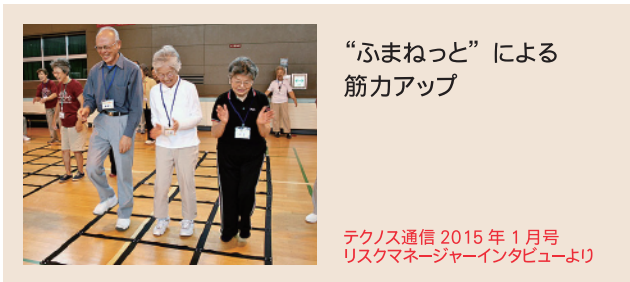
離床センサー
タイプはこちら

トイレコール・離床センサー
トイレでの転倒を未然に防ぎます

- ・離床センサーでトイレの立ち上がりを報知する

③ 車いすのずり落ち、立ち上がり転倒

- ・車いすに長時間座らせたままにしないよう、車いすでも出来るアクティビティの工夫をする
- ・バランス間隔の向上や筋力アップの為に段階的なリハビリプログラムを組自立支援を測る（ふまねっと等）



離床センサー
タイプはこちら

座コール
車いすからの立ち上がりを報知します

転倒しても骨折や怪我をしない環境づくり

- ・敷物やカーペットの固定、コード類の収納、移動を行う
- ・弾力のある床材やカーペット使用する
- ・低床ベッドの使用
- ・転倒骨折軽減パンツの使用



離床センサー
タイプはこちら

コールマット・ベッドコール etc
ベッドからの起き上がりを報知し未然に立ち上がりを防ぎます

- ・離床センサーでベッドからの起き上がりを報知する